

みんなの広場

..:..:..:..:..

(題字は千葉理事長)

※右の黒点は、題字と同じ内容を点字で表したものです。



思い出、いっぱいいつくつたよ! ~和光学園の夏休み~

7月26日から7月27日、秋田県道川海水浴場
岩城少年自然の家に行ってきました。
「海水浴やキャンプファイヤー、ザリガニつりも
楽しみました!!」

主な内容

- シリーズ「続・精神障がい者への支援」その② … 2
- 岩手県立療育センター相談支援部の業務の紹介 … 3
- 「岩手珈琲物語」(松風園)
新たな挑戦「シイタケ栽培」(さくら) …… 4
- 支えられて15年 たばしね学園 おもちゃ図書館
ケアホーム「ぼらん」2度目の春・夏・秋・冬 … 5
- 笑顔いっぱい 好地荘・松風園 合同夏祭り
業務改善活動の紹介(和光学園)
- 岩手県立視聴覚障がい者情報センター
「サピエって何?」 ……………… 6

シリーズ 続・精神障がい者への支援

その②

地域生活におけるネットワークの重要性

■自己決定を支援

相談支援センターさくらには、地域で暮らす精神障がいを持つ方やその家族から、人間関係、医療、福祉サービスの利用などについて、日々多くの相談が寄せられています。精神障がいといつても病気の種類は様々で、病気の時期、家族の状況などにより、必要とする支援はそれぞれ異なってきます。

地域生活では、医療、移動手段、日中活動の場などを、散在している資源から自分で選んで利用することになりますが、精神障がいを持つ方の多くは、対人関係が苦手等の障がい特性により、必要な資源の調整に困難さを伴うため、支援が必要だといわれています。

実際にどのような支援を行うかは、ご本人との話し合いにより決めていきますが、大切なのは、ご本人の話に耳を傾け、不安や戸惑いを受け止めながら、「自分でもできそうだ」という方法と一緒に見つけ、必要な資源につなげていくことです。その際には、ご本人の能力に応じて、パンフレットを用いて丁寧に説明したり、見学に一緒にに行く等、主体的に自己決定できるよう配慮することが求められています。

■ネットワークの拡充で支援の充実を

また、相談場面で詳しい情報提供を行い、他機関を紹介するためにも、医療機関をはじめとする地域の関係機関とのネットワークは欠かせません。ご本人を交えた個別の話し合いの場での情報を交換や、協力関係の積み重ねは、精神障がいの方を取り巻くネットワークを少しずつ、しかし確実に広げていくことを実感しています。

(相談支援専門員 高橋 美香子)

今後も、地域から期待される役割を果たし、関係機関との連携を深めることで、精神障がいを持つ方の地域生活を支える仕組みづくりにつながるよう努力していきたいと考えています。

様々な方法を話し合います

この活動の目的です。

平成19年度の利用は33市町村(県内35市町村中)でしたが、今年度は24市町村(34市町村中)となっています。当チームの発達相談支援を利用しなくては、市町村独自事業として発達相談支援を展開する市町村が増えています。また、事後カンファレンスへの参加者も、市町村担当課の発達相談支援専門員、相談支援専門員、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター等の参加も多くなっています。市町村での支援を検討する際に大変有効となっています。

このほか、広汎性発達障害と診断された方についても、支援困難な状態が続いている市町村に限らず、希望する市町村でも開催しており、平成19年度は全ての市町村に限らず、希望する市町村でも開催しております。市町村の保健・福祉・教育の担当者や子育て支援センター、療育教室スタッフ、また、相談支援専門員や特別支援学校の特別支援教育コーディネーター等の参加をいたしました。

最近は、10代半ばの児童が初めて利用するケースが多く、そういう難しいタイプの子どもたちを支援していく中で、どう成長につなげていけるか、精神科医療と連携しながら模索中です。

(寮棟主任 氏家 孝二)

信頼・絆につなぐ支援 その② ～発達障がい児との関わり～

みたけ学園

平成21年度に連載しました本シリーズですが、精神障がい者への支援について今年度もその理解を深めるべく、全3回のシリーズでお届けします。

■増える発達障がい児、困難な支援

知的障害児施設を利用している子どもたちにも、精神科医療との連携が必要となる子どもたちが増えました。その典型が、親の愛情に恵まれなかつたり、親などの家族から虐待を受けて、家庭に居場所を失った子どもたちです。中には、このことが原因で、10代半ばにして病名がつけられたケースもあります。彼らには、知的障がいに対する支援が中心とした支援に重点が移っていくことが考えられます。

虐待を受けた子どもたちは、基本的に他者との距離感がよくわかつていません。初対面の人にはベタベタとまとわりついたり、本人にはとても大切な人なのに、ちよつとしたことで簡単に相手の神経を逆撫でするような言動や、あえて相手が嫌がる行動をすることは珍しいことではありません。このような子どもたちは、「大切にされている」「見守られている」「心配してくれている」などといった安心感が伝わって、初めて心を開いてくれます。一般的に、信頼関係を築くまでに多くの時間を要します。

この活動の周知を目的に、年度当初に「発達支援関係者ミーティング」を開催しています。発達相談支援を利用している市町村や、当チームのスタッフを派遣している市町村に限らず、希望する市町村でも開催しており、平成19年度は全ての市町村に限らず、希望する市町村でも開催しております。市町村の保健・福祉・教育の担当者や子育て支援センター、療育教室スタッフ、また、相談支援専門員や特別支援学校の特別支援教育コーディネーター等の参加をいたしました。

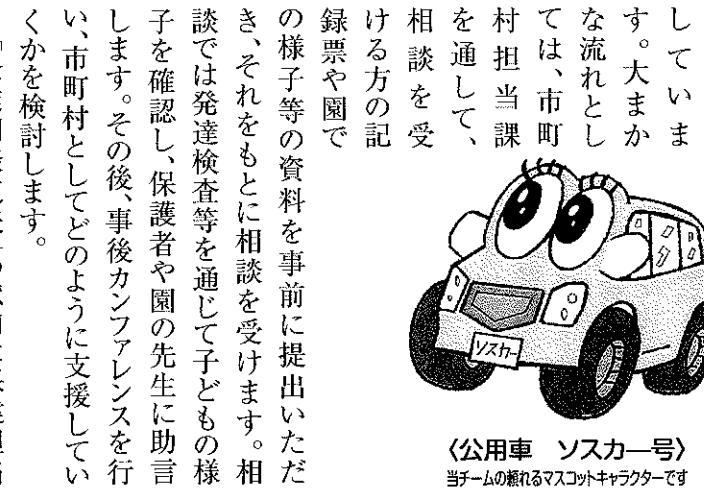
また、実際に出向くことで知り得たことがたくさんあります。例えば、乳幼児健診について、1歳6ヶ月児健診・3歳児健診は法律に定められていますが、その他の健診については市町村によって様々です。保健師の人数も市町村で異なります。療育教室についても、児童デイサービスとして行っているところもありますが、独自事業として行っているところもあり、回数や対象児についても異なります。市町村ごとの実態・実状に見合ったそれぞれの健診・相談・療育支援体制を作ることが大切であることを実感しています。

(相談支援員 横林 みず穂)

当チームの業務の中で大きな割合を占めるのが「発達相談支援」です。市町村での乳幼児健診や日々の保育等から、支援が必要な子どもについて相談を行います。また、相談を受けるだけでなく、市町村の支援体制をサポートす

■発達相談支援

当チームの業務の中で大きな割合を占めるのが「発達相談支援」です。市町村での乳幼児健診や日々の保育等から、支援が必要な子どもについて相談を行います。また、相談を受けるだけでなく、市町村の支援体制をサポートす



〈公用車 ソスカー号〉
当チームの頼れるマスクキャラクターです

の様子等の資料を事前に提出いただきます。発達相談担当・言語相談担当は、市町村担当課を通じて、相談を受ける方の記録票や園で

「発達相談支援」の窓口は保健担当課であったり、あるいは児童福祉担当課、障がい福祉担当課と、市町村によって異なります。また、多くの事業(乳幼児健診や障がい児保育等)が市町村事業として実施されています。市町村に応じた助言や提案、他の市町村による利用できる資源等が異なります。市町村に応じ組みを紹介することも、



発達支援関係者ミーティングの様子

■関係者ミーティング

市町村の資源について確認したり、意見交換する機会として、また当チーム

の活動の目的です。

平成19年度の利用は33市町村(県内35市町村中)でしたが、今年度は24市町村(34市町村中)となっています。当チームの発達相談支援を利用しなくては、市町村独自事業として発達相談支援を展開する市町村が増えています。また、事後カンファレンスへの参加者も、市町村担当課の発達相談支援専門員、相談支援専門員、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター等の参加も多くなっています。市町村での支援を検討する際に大変有効となっています。

この活動の周知を目的に、年度当初に「発達支援関係者ミーティング」を開催しています。発達相談支援を利用している市町村や、当チームのスタッフを派遣している市町村に限らず、希望する市町村でも開催しており、平成19年度は全ての市町村に限らず、希望する市町村でも開催しております。市町村の保健・福祉・教育の担当者や子育て支援センター、療育教室スタッフ、また、相談支援専門員や特別支援学校の特別支援教育コーディネーター等の参加をいたしました。

♪笑顔いつぱら～

好地荘・松風園合同夏まつり



長かった夏の思い出
を彩る、好地荘・松風園
の合同夏まつりの様子
をご紹介します。

7月31日に、好地荘・松風園合同夏まつりが開催されました。昨年は雨天により、体育館での開催となりましたが、今年は天気に恵まれ、グラウンドで行うことができました。

今年の夏まつりのメインイベントは、北上市出身のマンドリンシンガー、清心さん（ミニカ）のサートです。清心さんは「手と手」等オリジナル曲を4曲歌ってください、清心さんの澄んだ歌声とマンドリンの音色に感銘を受けました。

最後のアンコールでは、清心さんがステージを降りて、観客の皆さんと一緒に「ふるわい」を歌ってくださいました。清心さんと一緒に歌った好地荘のNさんには、「来年も来てほしい」と話していました。

清心さんのミニカのサートの他にも、北上市の「ピエロの会」の方々が、ステージでパルーンアートを披露してくれたり、子ども達にも大人気でした。まつりのファーレは、盆踊りと2年分の花火で、地域の子



笑顔が素敵な清心さんです

みんなの広場 2010 第107号 平成22年10月1日発行

発行／社会福祉法人岩手県社会福祉事業団 〒020-0114 盛岡市高松三丁目7-33
電話 019-662-6831 FAX 019-662-8044
URL <http://www.iwate-takushii.or.jp> E-mail fukushirj@wate-fukushirj.jp

ども達も、施設の利用者の皆さんも、たいくん盛り上りました。
来年も楽しい企画を考えてまいりますので、是非夏まつりにいらしてください。お待ちしております。
（好地荘 生活指導員 岡野 彩子）



「ピエロの会」の皆さんに大盛り上がりでした

業務改善活動の紹介 和光学園「施設内暴力の解決に向けた安全委員会の取り組み」

【3 安全委員会での対応】

基本的に、力関係に差のある身体的暴力を扱う。児童間、児童から職員、職員から児童の3つの暴力を扱う。

【2 安全委員会で扱う暴力】

施設内部だけでなく、児童相談所や学校関係者、地域の方々等の外部の関係者を入れた形で構成する。

【1 安全委員会の組織】

一度により、①厳重注意、②特別日課、③一時保護、④退園の4つの措置がある。子どもたち自身にも分かりやすい一貫したルールを示し、そのルールに基づいて一貫した強力な抑えを実行していくのが特徴。また、その対応については、外部委員も含めて審議し、園長へ勧告する。

【4 暴力を非暴力で抑える】

生活の中で、子どもたちに「暴力はダメ、叩くな、口で言え」を徹底して教え、暴力に替わる別な方法を教える。

考案したシステムアプローチです。

施設内暴力の問題は、個々の力での解決が難しいうえ、問題が見えにくい場合があり、また、重大な問題であるにも関わらず、施設内部だけで解決しがちです。これに対して、安全委員会は、外部の第三者を入れた形で、システムとして取り組んだことに特徴があります。現在、和光学園では、子どもたちも暴力に対しても意識をして生活し、深刻な暴力はみられなくなりました。

*安全委員会が暴力をなくするのではなく、職員が子ども達に向き合い、それを応援する仕組みが安全委員会です。
（児童指導員 藤森 祐司）

「サピエ」ってなに？ 岩手県立視聴覚障がい者情報センター

世の中は、まさにIT時代。パソコンひとつでどんな情報も得られる便利な時代です。視覚障がい者の読書環境も例外ではありません。インターネットで図書資料を検索したり、貸出し依頼をしたりデータもダウンロードできるようになります。視覚障がい者の読書を支援するネットワークシステム、それが「サピエ図書館」です。

「サピエ」は、全国の点字図書館や公共図書館、ボランティア団体等約205の施設と個人会員約6千人が登録し、書誌データベースは約47万件を保有しています。読みたい時に読みたい本を自由に選ぶ！視覚障がい者のIT利用は、これからますます発展していくことでしょう。それを支援していくことが私達の役割…と考えています。

（主任情報支援員 庄司 智子）